【竹の子エコクラブだけじゃない地域の自然体験】❸毎年行われている竹間沢小学校児童によるホタルの幼虫放流の様子。紙コップに分けられた幼虫を沢に放す。こぶしの里を舞うホタルは子どもたちの想いを乗せて飛んでいる。❹歴史民俗資料館で行われた藍染体験。資料館では土曜体験を行い、町の歴史、自然を子どもたちが体験するイベントを定期的に行っている。❺若手農家が結集した４Ｈクラブ。農にふれあってもらうため小学校の児童に農業体験を指導するなど、地域活動を積極的に行っている。

▶ Interview　竹の子エコクラブメンバー

窪田 真弘くん

自然があるこの町が大好き

参加して４年目。テレビ出演がうれしかったです。エコクラブに入るまで、こぶしの里を知らず、身近な場所に自然がたくさんあることを知り、町が大好きになりました。

望月 未来さん

緑いっぱいの町のままでいてほしい

エコクラブの活動は楽しいです。こぶしの里は自然豊かで緑がたくさんあるところが大好きです。このままずっと、自然と緑がいっぱいある三芳町でいてほしいと思います。

❻❼竹の子エコクラブ活動の様子。この日はこぶしの里の散策。植物や生き物を発見したらビンゴのマスに書いていくゲームをし、楽しみながら三芳町の自然に触れあう。❽こぶしの里の名の由来でもあるこぶしの実を手にし、誇らしげにかかげて「実をむくと白い糸がゴムみたいに伸びるんだよ」とカメラの前で教えてくれました。

❷竹の子エコクラブ、こぶしの里探検の参加者。木々がまるで子どもたちを優しく包み込んでくれているようだ。

❶竹の子エコクラブの活動の様子。コナラとクヌギの葉の違いを学んでいる。

TOKAI NAKA

大人になった未来のわたしへ。

町の未来を担う三芳の子どもたち。自然や緑、農、生き物。三芳町の魅力に子どもたちが、たくさん触れられる機会を作る活動を竹の子エコクラブをはじめ町ぐるみで行っています。

ホタル観賞が終わり、新緑深まるこぶしの里から「こぶしの実が落ちてる」「この葉っぱは何の葉？」と話す子どもたちの声が聞こえます。その声の正体は「竹の子エコクラブ」の子どもたち。植物や生き物の観察をするため、こぶしの里を訪れました。

２００２年5月から活動を開始した竹の子エコクラブは毎年４月に小学生のメンバーを募集し、今年は約40人。地域の自然や生き物、歴史に触れて、自然の大切さや環境を考える活動をします。「自然環境や生き物に関心を持ち、大人になったとき地域の環境活動ができる子を育成することを目的に活動を始めました」という代表の村上久美子さん(56)。「自然に触れあい、その大切さを子どもたちは感じているようです。地域の自然環境を守るための方法を、子どもたち自身が自主的に考えるようになりました」と活動の成果を話しました。

竹の子エコ壁新聞。活動報告を子どもたちが自分で考え作り、こどもエコクラブ全国フェスティバルに出場するなど高い評価を得ました。そしてＮＨＫ「ホットスポット生命の教室」の番組に出演し、福山雅治さんと共演するなど、活動を通じて貴重な経験をしています。

生まれ育った町の自然を忘れないでほしいと願う村上さん。「大人になった時、生まれ育った町の大好きだった緑や生物がいなくなったとしたら、どんなに悲しいでしょう。故郷の自然を守りたいと思えるように、子どもたちに、たくさん三芳町の自然を知り、触れてどんどん好きになってほしいと思います」。

都会から近いにも関わらず、生まれ育った町の自然や緑、生物を愛する子どもたちの心を育てることができるのは、三芳町の魅力のひとつです。

活動報告は新聞に（2013年）。このエコ新聞は高い評価を得ている。